

# HOYOG 教区新報

発行所 浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所  
〒650 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号  
(本願寺神戸別院内)  
電話 神戸(078)341-5949(代)  
【編集】教区基推委広報部

1990. 10. 39号

## 台風19号、11か寺に被害

### 門徒千四百戸に床上・床下浸水

先の大規模台風十九号は九月十九日夜和歌山県に上陸し中部地方から東北へと列島縦断コースをとり、西日本全域を暴風雨に巻き込み兵庫教区内の各地にも大きなツメ跡を残しました。

岡山県東部や兵庫県各地では十七日から十九日にかけて断続的に激しい雨が降り、集中豪雨が崩れなどの被害が相次ぎました。当初二十日に予定されていた組長会と結集大会実行

委員会も延期され、その日から職員が被害にあわれた各組へお見舞いすると共に、災害状況などを調べ、本年内務局へ報告しました。特に被害の大きかった城崎組ではお寺の裏山が崩れ、光永寺などではお寺がガケの真下にあつたため、ご門徒の家を守るようにして土砂の直撃を受けられた。また、香住の西光寺では一人

住まいの坊守様が庫裏への土砂流入の中、ご門徒宅へ避難をされるなどの被害となつた。二十七日現在で教務所において把握できた被災現況は、ご門徒被災、床上浸水三百九十六戸、床下一千四百十戸、山崩れ五か所など。寺院被災については次の通りです。加古川組正願寺

法寺 本堂・庫裏床下浸水  
▽神崎組教徳寺 庫裏床下浸水  
▽神姫組了慶寺 屋根破損  
▽姫路東組浄福寺 床下浸水  
▽朝来組善証寺 山崩れにより浸水  
▽勝賢寺 土砂流入と浸水  
▽城崎組光永寺 裏山から水が出て、土砂が本堂の床まで流出。庫裏・書院も土砂と水が川のように通り抜ける  
▽西光寺 裏山が崩れ庫裏半壊し、立っていた位置もずれる。境内にも土砂流入  
▽国正寺 床下浸水。山崩れのため一部庫裏小破  
▽岡山南組正覚寺 庫裏・保育所床上浸水。



土砂で西光寺庫裡の玄関、炊事場が崩壊

「自然法爾章」に「名」の字は因位のときのなを名という。位のとときのなを名という」とあり、「唯信鈔文意」にも同意の文がみえます。辞典によれば「名は夕と口とからなり、夕方は暗いので人に対して自分の名を告げねばならぬ意、號は心を痛めて、虎が吼えるように大声で叫ぶことを意味する」とある。◆因位と時とは、法蔵比丘と名乗り給いて不可思議の大誓願を起され、未だ仏に成り給わぬ「設我得仏」の誓い時です。四十八願は、第二十願を除いて、総て「聞我名字」と誓われ、仏に成り給うて後、「聞其名號」「彼仏名號」「執持名號」と號の字が使われている。◆宗祖は經文の一字一字を真読され、「仏願の生起本来を聞け」と御せられたのは「名と號」のいわれ即ち仏の願いと成就の相を聞思せよ、そこに私の拯いがあるとされたからである。正覚成就の名號を十方無量の諸仏の咨嗟を通して阿彌陀仏の存在とはたらきを迷妄の私に回向せんという大悲心の発動である。(山本達誓)

教区たより		10月	
10月1日(月)	研修読本作成部会 10時半	9日(火)	都市開教推進部会 江並教堂
1日(月)~2日(火)	第三連区基幹運動研修会 大阪・高石市	12日(金)	結集大会財務部会 1時半
2日(火)	教区仏婦委員総会 10時半	14日(日)	仏壯常任理事会10時半 理事会 1時
3日(水)	教区門徒総代会研修会打合せ 城崎	14日(日)~16日(火)	別院常例 堀川宣裕師(城崎組本誓寺) 1時半
4日(木)	結集大会行事 10時半 編集 1時半	17日(水)	教化センター委員会 1時半
6日(土)	連区職員研修 和歌山	19日(金)	第十八回近畿地区仏婦大会・若婦人の集い 和歌山
6日(土)~7日(日)	第一土曜仏教講座 山内教嶺師(東海教区) 1時半	22日(月)	結集大会実行委員会 10時半
7日(日)	近畿ブロック仏青研修会 西脇修師(揖尾西組超念寺) 神戸別院	23日(火)	西播常例線打合せ 新舞子荘
	別院仏婦永代経法要 川端正道師(岡山北組報恩寺) 1時半	25日(木)	企画推進室会議 10時半
		11月7日(木)	兵庫教区御同朋結集大会 ワールド記念ホール 10時半

八月二十一日より兵庫教区内を6ブロックに分けて門徒総代研修が行われていましたが、去る九月十四日の岡山ブロックで総代会の研修が終了しました。会場は玉野市にある岡山南組正善寺(篠崎正善住職)で岡山地区の二組三十三か寺から総代四十三人が参加し開催された。十時半から始まり講師の西脇正文師(揖尾西組超念寺)研修指導員の近藤龍樹師(加古川組普光寺)の問題提起の後、四班に分かれての話し合い発表、助言があり午後三時半に閉会した。①私のお寺はどうあるべきか②お念仏申すとは③仏事を行う心とは。を中心に話し合った分科会の発表の内容を少し紹介すると。◇四百年行事の懇志を集め

『お寺は、もっと積極的なご縁を』  
玉野市で総代研修会  
るのに困っていたが、何とか頑張った。しかし本堂の修理、営繕など各寺においては大変困っている。これからは本山からの懇志依頼もあると思うが、もっと私たちのお寺のことも考えて実施して欲しい。◇葬儀のやり方が、それぞの地域で少しずつ違うようですが、もっと徹底してほしい。◇寺へお供えをしてもお礼一つない、寺はもらつてあたりまえと思つているのか。そんな事が益々お寺とそえんにする。◇他宗派の「何かせめて」のようにこの真宗も美作地区浄土真宗巡りのようなものと積極的にお寺も参るご縁をつくって欲しい。等々色々な意見がだされ、それに対して西脇講師は次のようにしめくられた。お寺の有り方の基本的なおさえとして自他化他の道場でありたい。言い換えると聞法と伝道がなければ寺でないと言えよう。その事は寺に住んでいる者だけが考えるのではなく、それをささえているご門徒もいっしょに考えて欲しい。新興宗教などは組織が強い、私たちも総代を中心として仏婦、仏壯など組織が強い

生前の「苦勞を偲び 謹んで敬弔の意を表します。(敬略略)」  
神戸湊組教連寺住職 橋本 謙誠 8月29日 75才  
「教徳院釋謙誠」  
加古川組善照寺坊守 北村 慧 9月7日 68才  
「静攝院釋尼慈慧」  
城崎組西光寺住職 谷口 達聞 9月8日 78才  
「西光院釋達聞」  
新宮組明源寺前住職 赤松 義隆 9月17日 85才  
「明覚院釋義隆」

ガタピシ  
イラクのクウェート侵攻は外国人を人質にするという事態となり、毎日、新聞テレビで大きなトップニュースとして、とりあげられています。この中には、日本人も含まれており、留守を守る家族の人達の心配はいかばかりかと思えます。お互いの国が、自分達の主張は正しいと見え、敵対する国も、自分の方が正しいとゆずらず、周囲の国を巻き込んで「ガタピシ」となっています。この「ガタピシ」は「我他彼此」とも書き、仏教の言葉なのです。

広報部より  
教区新報の来月、十一月号は七日の御同朋結集大会開催後に発行を予定しておりますので、少し遅くなりますが皆様のお手元へは十一月中旬にお届け致します。(事務局)

寺報から  
これは、私と他人とを差別することなく、まちがいに救いをつけてくださることを喜ばない、喜ばないこの私をあれれ「名号」という短い言葉に思いを込めてくださっているのです。(城崎組明源寺より 9月5日号より)

「自然法爾章」に「名」の字は因位のときのなを名という。位のとときのなを名という」とあり、「唯信鈔文意」にも同意の文がみえます。辞典によれば「名は夕と口とからなり、夕方は暗いので人に対して自分の名を告げねばならぬ意、號は心を痛めて、虎が吼えるように大声で叫ぶことを意味する」とある。◆因位と時とは、法蔵比丘と名乗り給いて不可思議の大誓願を起され、未だ仏に成り給わぬ「設我得仏」の誓い時です。四十八願は、第二十願を除いて、総て「聞我名字」と誓われ、仏に成り給うて後、「聞其名號」「彼仏名號」「執持名號」と號の字が使われている。◆宗祖は經文の一字一字を真読され、「仏願の生起本来を聞け」と御せられたのは「名と號」のいわれ即ち仏の願いと成就の相を聞思せよ、そこに私の拯いがあるとされたからである。正覚成就の名號を十方無量の諸仏の咨嗟を通して阿彌陀仏の存在とはたらきを迷妄の私に回向せんという大悲心の発動である。(山本達誓)

「こんな身近な所に、こんないい所を発見」(ぴあ)と「洋風にインド様式、異彩の仏教寺院。モダン寺は神戸名物」(ビー・シユア)の記事



## 「エポックメーカーな衝動」 神戸別院モダン寺 九月の二誌に紹介

秋の観光シーズンに向けて九月に発行された雑誌に「いろんな秋のシーンが楽しめる京都・神戸のスポット」として九月十三日発売の『ぴあ』に「神戸、坂のある港町。国際都市の永遠のエキゾチズム」として九月一日発売の『BE・SURE』(ビー・シユア)に神戸別院モダン寺が紹介されています。

ビー・シユアの「洋風にインド様式。異彩の仏教寺院、モダン寺は神戸名物」との見出しで始まる記事は次のように書いてあります。

「近代文化の最先端を歩む世界的海港都市大神戸の一角に、一つの新しい様式の寺院が建立された(略)この新様式は、新時代に適合したものとして、本國寺院建築史上にエポックメーカーな衝動を与えたものと伝ふべく、永久に特筆大書されるべきである。昭和五年十一月二十六日付の神戸新聞の一節だ。

この寺院とは、本願寺神戸別院。洋風建築の上に、インド・ブッダガヤの塔を模した尖塔が乗ったこの寺は、新しいものには慣れず、このはずの神戸っ子ですら、びっくり仰天。「モダン寺」の別名を与えた。

現在も、花隈駅西側に堂々と異彩を放つこの建物は、その呼び名で親しまれている。

本堂正面の石段を上がると左右の壁面にはブロンズのレリーフ。大理石の階段、ステンドグラス、椅子の本堂と、カトリック教会と見

まちがえても不思議ではない。内陣もブッダガヤ大塔様式と、日本の仏教寺院とは一味違ったエキゾチズムにあふれている。

プランニングは、当時の住職、大谷尊由師。寺は民衆の生活とかけ離れては成り立たない、ストロープを入れ、椅子に腰かけて説教を聞いてもらえる本堂を、とハイカラな寺を目指した。後押しをしたのが、門主の大谷光瑞師。世界各地を巡遊した経験から、洋風建築とインド様式の折衷を提案したといわれる。

保守的なイメージの強い宗教界だが、実は一歩も二歩も時代をリードする前衛であり続けているのかもしれない。



「ぴあ」の記者に説明する職員

この記事であるように、もし今の神戸別院が、ガイドブックを片手に神戸を訪れる観光名所としてしかその建物の機能を果たさないとしたら、寂しいことです。

「コンピューター、ソフトなければただの箱」といわれます。いくらガワだけが最先端であっても、本堂に大切なのはウチにあるお念仏への熱い思いではないかとも思ったり……。

## お東の保育者と交流

### HOME

◆8月25日 東西真宗保育研修会を阪神南組正光寺の慈愛保育園(波多正響園長)で開催。大谷派の山陽教区と兵庫教区と同じ真宗の教えを共にする保育者としての素養と相互の交流を深める目的で毎年開催、今年には本派の担当となったもの。六十六人が参加して公開保育や講義などが行われた。

◆26日 朝来組結集大会を和田山町幸徳殿で。所長祝辞

◆新宮組結集大会を宝林寺。所長祝辞

◆27日 岡山南組結集大会を西方寺。所長祝辞

◆播磨中組寺族婦人同朋講座を光宗寺。教区派遣講師は藤野昌俊師。姫路西組婦人同朋講座を本徳寺。講師は西脇修師

◆28日 結集大会編集委員会。大会記念誌に寄せられた各組からの原稿内容を検討したり表紙ページ取りなど

◆佐用組婦人同朋講座を法覚寺。講師は川端正道師

◆本山で四百年の団参会議に担当職員出席。教区の募集現況などについても報告

◆近同推議会・研修会を奈良で。研修会では

「教区同朋運動の現況と課題」と題して三教区から発表があり、兵庫からは杉本昭典師が発表された

◆31日 基推委企画推進室会議。教区基本計画大綱の推進と第四期以降の計画策定などについて。

◆9月1日 別院第一土曜仏教講座を阪神南組婦人同朋講座を法輪寺。講師は瑞

穂光信師。姫路中組結集大会を花の北市民広場大ホールで。所長祝辞

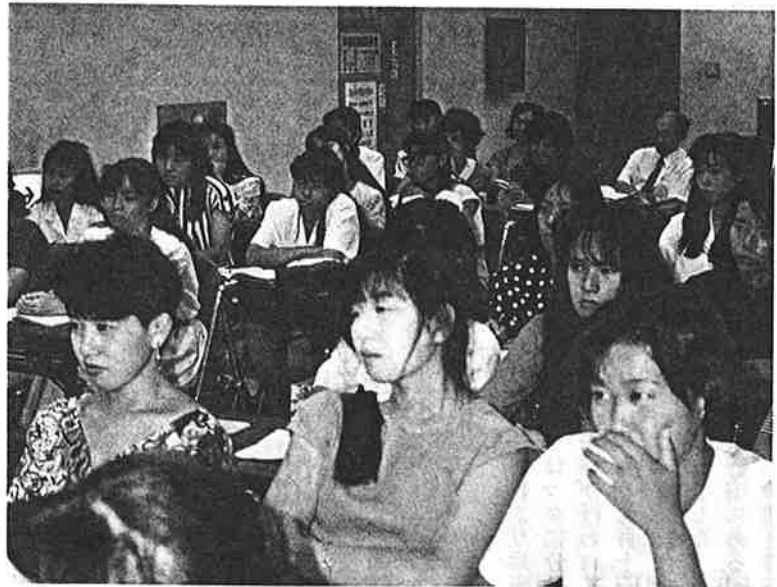
◆2日 赤穂北組仏婦研修会に所長出席

◆3日 姫路西組結集大会をキャッスルホテル。所長祝辞

◆青年僧侶の会役員会。浜坂での一泊研修について

◆出石組婦人同朋講座を正福寺。講師は藤野昌俊師

◆城崎組婦人同朋講座を



今日は教えられる立場の若い先生たち

善教寺。講師は谷川弘顕師

◆4日 教化センター協議会。センター構想の進め方など厳しい意見もされたが、今後は委員会を設置し検討を重ねることとなった

◆結集大会部長会・庶務部会 結集大会記念誌の別院からのページに載せる写真撮影に十五人全員の職員が本堂に上がる階段で「はいポーズ」でした

◆5日 7日 教区仏婦委員研修旅行。参加四十三人で親鸞聖人の御跡を慕って関東二十四輩を参拝、一日目の宿泊は水戸市にある真仏寺でした

◆6日 加古川組婦人同朋講座を金照寺。講師は西脇修師

◆滋賀の守山球場で寺族青年野球大会。今年は兵庫から二チーム参加したが「優秀な選手を二つにわけたのが、どちらも一回戦で惜しくも涙をのんだ原因では」と三つのエラーをした教務所職員

◆7日 別院仏婦定例。講師は赤松義光師

「生きていることがあたりまえと思っているが、生きていくものにとって死が当然であって、今ここに生きていることが、大変なことである

◆11日 総代ブロック研修(姫路・西播)を姫路西組本徳寺。講師は西脇正文師、参加二百一十一人

◆12日 総代ブロック(東播)を多可組浄福寺。講師は久堀弘義師、参加七十五人

◆13日 14日 近畿地区教区会議長

り、いろいろなものの働きにより、たまたま生をえているのである」との講師のお話に多くのご門徒がうなづいておられました

◆少年サマースクール反省会

◆8日 阪神西組結集大会を西福寺。所長祝辞

◆神戸西組結集大会を灘市民センター

◆神姫組住職寺族同朋講座を明正寺。講師は藤栄行信師

◆9日 仏壮ブロック研修(丹波・但馬)を多紀組尊宝寺。講師は富永真哉師、参加百四十八人

◆10日 総代ブロック研修(阪神・神戸)を別院。講師は西脇正文師、参加八十二人

◆阪神東組婦人同朋講座を西善寺。講師は藤栄行信師

◆姫路中組婦人同朋講座を光源寺。講師は近藤龍樹師

◆結集大会編集委員会 結集大会スライド打合せ。

◆11日 総代ブロック研修(姫路・西播)を姫路西組本徳寺。講師は西脇正文師、参加二百一十一人

◆12日 総代ブロック(東播)を多可組浄福寺。講師は久堀弘義師、参加七十五人

◆13日 14日 近畿地区教区会議長

・組長代表・教務所長合同会議を大阪高石市の羽衣荘で開催

◆14日 組長ブロック長会議

◆総代ブロック研修(岡山)を岡山南組正善寺。講師は西脇正文師、参加四十三人

◆14日 16日 別院常例。講師は本多龍雄師

◆15日 仏壮ブロック研修(岡山)を岡山北組妙願寺。講師は暇丘大愚師、参加は四十九人

◆16日 北摂組広宣寺門中浄光住職継承法要に本山よりの祝辞伝達に教務所長出席

◆17日 勤式練習。別院の彼岸会でお勤めするお経の練習

◆18日 東京千鳥ヶ淵での全戦没者追悼法要に教務所長出席

◆20日 当日予定しておりました組長会と結集大会実行委員会は大型の台風十九号の影響で岡山東部や姫路地区、城崎方面等に大きな被害があり二十七日に延期されました

◆22日 24日 別院彼岸会。講師は備後教区から曾我弘道師。中日には婦人会が手作りのぼた餅二百個も好評でした

◆25日 企画推進室会議。教区基本計画大綱の推進と第四期以降計画の策定など。

## 「生は偶然、死は必然」